

教科目名 社会システム (Infrastructure system)

学科名・学年 : 全学科共通 5年

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教官 : 亀野辰三

授業の概要		
<p>本科目は、JABEE が要請する「社会技術」の知識を獲得するために開講する科目である。21世紀に入り、日本の経済、産業構造は大きな変革を求められている。また、少子高齢化と雇用形態の変化は我々の社会システムを大きく変えつつある。これらの大きな流れは、都市、地域のさまざまな側面にも大きな影響を与えている。そこで、本講義では、このような状況にある都市、地域における新しい動きや問題を認識し、これからの都市・地域政策や、あるべき都市・地域の姿を検討するための基礎的知識を学ぶものである。</p>		
<p>到達目標 大分高専目標 (E2), JABEE 目標(d1)(d2a)</p>		
<p>(1) 都市、地域における過去、現在を、その環境、政策、制度を通して現状認識ができる力を身に付ける。 (2) 都市、地域における基礎的理論を理解する。</p>		
回	授 業 項 目	内 容
1,2	1 .都市の構造の変化に対する社会工学的アプローチ 1.1 都市、地域の変貌 1.2 都市計画、規制、環境問題 1.3 都市行財政制度の変革 1.4 変革を支える理論と技術	戦後発展してきた日本の都市は、大きな構造変化と制度改革を迫られている。この理由を理解し、また変化に伴うさまざまな問題を解決していくためには、単一の学問体系だけではなく、学際的で広範な知識体系と技術が必要であることを理解する。
3,4	2 持続可能な都市のかたち 2.1 都市の持続可能性 2.2 環境に配慮した住宅地 2.3 持続可能な都市の提案 2.4 持続可能な都市モデルの先駆 2.5 雇用と活力の持続 2.6 都市のコンパクトさの重要性	持続可能な都市は、地球環境ばかりではなく、歴史の尊重と経済効率の観点からもきわめて重要であることを示し、持続可能な都市形態をコンパクトシティなど、過去の提案の検討を通じ考察する。
5,6	3 .都市空間形成における公的部門の役割 3.1 明治の近代都市建設 3.2 大正から昭和初期の都市建設 3.3 第二次大戦後の都市建設 3.4 都市空間形成における公的部門のかかわりかた	明治～大正～第二次大戦後の都市建設において、公的部門がどのように関与したかを振り返る。そして、公的部門が都市空間形成に関与する方法について学ぶ。
7	後期中間試験	
8	後期中間試験の解答と解説	自身の理解力を分析し、わからなかった部分を理解する
9	4 .都市の公共財と公企業の役割 4.1 地方公企業とは 4.2 地方公営企業 4.3 地方公社と第三セクター	都市、地域に存在する地方自治体の関与している地方公企業に焦点をあて、公的部門が関与して設立した公社、第三セクターの実績と限界を検討し、公的部門の関与のありかたを考察する。
10	5 . P F I による公共サービスの供給 5.1 PFI の誕生と進展・特徴 5.2 日本における PFI の導入・事例 5.3 PFI の評価と問題点	PFI は、民間に施設建設の設計から資金調達、経営管理まで任せ、今まで公共が独占してきた公益や公共サービスを民間企業に開放する試みである。その有効性と問題点について考察する。
11,12	6 . 中心市街地の活性化 6.1 中心市街地の不振 6.2 消費者の商業地選択モデル 6.3 商業地不振の原因と対策	現在進行している中心市街地、商店街の衰退問題を取り上げ、その主な原因が、都市構造と消費者行動の変化にあることを理解する。この対応策と再活性化を考察する。
13	7 . 広域行政と市町村合併 7.1 広域行政の形態 7.2 広域行政の意義と問題点 7.3 市町村合併	広域行政の制度と実態を学び、そのメリットと問題点を考察する。さらに広域行政の究極の発展型として市町村合併について検討し、合併の問題点を含めて都市地域行政の広域化について考察する。
14	後期末試験	
15	後期末試験の解答と解説	自身の理解力を分析し、わからなかった部分を理解する
履修上の注意	電気回路 は本教科の前提となる教科であるから常日頃から十分復習しておくこと。配布するプリントは、授業を聞きながら大事な点を書き込んだり、問題を解いたりするのに使用するが、整理してファイリングしておくといよい。実力をつけるため適宜課題を出す。定期試験では期間中に学習した内容を中心に「電気回路」など過去に学んだ内容も含む。	
教科書	林亜夫・阪本一郎、「都市システム工学」、日本放送出版協会	
参考図書		
関連科目	交通工学、環境計画、都市計画、景観デザイン、地域計画学	
評価方法	2回の定期試験の単純平均(70%)に、レポート課題(20%)、小テスト(10%)により評価する。また、授業態度により、評価点からその20%を上限として減点する。	